

社会科現状の分析と授業改善プラン

社会科における平成29年度改善プランの検証

- ・地理的分野、歴史的分野ともに、復習のための小テストや補習、家庭学習を定着させるためのノート作りを継続して取り組んだ結果、基礎学力を高めることができた。
- ・社会的事象について興味・関心を高めるため、話し合い活動や自分の意見を発表しお互いの意見や考えを知り高めあえるような授業や、新聞を活用した授業を実践した結果、社会的事象への関心・意欲がさらに高まった。
- ・授業で自分の意見を書いたり、資料読み取りを文章で書くことを継続して取り入れているので、記述問題について正答率が上がった。
- ・資料を読みとる力をつけるため地理的分野では、白地図や資料集等を活用した作業的な学習を通して地域や各国の特色について理解させる取り組みを進めた結果、数値は向上したが、さらに継続して進めていく必要がある。
- ・歴史的分野では、自作のプリント用いて、復習を細かく行ってきた成果が表れた。今後も継続して歴史の流れを大観する指導を行い知識の定着を図りたい。

社会科における内容別結果の分析

- ・2・3年ともに前年度に引き続き、高い水準を保っていると言える。3年生では基礎、応用ポイント共に大きくプラスになっている。特に活用で高い数値になっている。2年生でも基礎、活用でプラスになっていて、特に活用の問題で高い数字になっている。これは基礎的なものを土台にして思考判断、資料活用などの力がついている結果だと思われる。
- ・地理分野では、「地球の姿」「世界各地の人々の生活」「日本の地域構成」で正答率が高かったが、「世界の諸地域」「日本の諸地域」では若干正答率が低く、不十分であった。
- ・歴史分野では全ての領域において目標値以上のポイントであった。特に、「縄文時代～古墳時代」「ヨーロッパ人との出会いと天下統一」「江戸時代」では高い数値を見せた。「明治時代」では若干不十分であった。

社会科観点別結果の分析

- | | |
|--------------|---|
| <関心・意欲・態度> | ・各学年ともに目標値より高い。また、2学年では前年度の数値よりも高い。 |
| <社会的な思考判断表現> | ・各学年ともに目標値より高い。特に2学年では18.7ポイント高くなっている。歴史的事象の時代的背景を理解し、他の事象との関連を説明することができるようになった。国内と外国の出来事を関連づけて理解する力や、原因と結果などを関連づける力をさらにつけていきたい。
・記述問題の正解率が非常に高くなった。各学年ともに約8割の生徒が正答している。授業で文章を書かせることで力をつけていると思われる。 |
| <資料活用の技能> | ・各学年ともに目標値より高い。しかし、各学年ともに前年度に比べ若干ではあるが下降している。前年度の授業改善のポイントで、グラフや資料の読み取りを授業の中で取り組んできたが、引き続き授業の中に取り入れていきたい。また、この4年間、資料活用を小中一貫の社会科部会のテーマにしてきたので1年生にもその成果が表れてきている。 |
| <知識・理解> | ・各学年ともに目標値より高い。「世界の諸地域」「日本の諸地域」など知識量が多い分野において定着率が低い。復習や小テストの取り組みを継続するとともに、結びつけて理解できる授業を取り入れていきたい。 |

社会科の授業改善のポイント

- 班での話し合い、調べ学習、発表などの主体的・対話的で深い学びを目指した授業実践が成績向上につながっている。今後も **ESD** で必要となるコミュニケーションの力、判断力、思考力を高めていけるような活動を継続していく。
- 資料活用能力を高めるため、学習テーマに関連する良い資料を探し、**TT** を効果的に活用しながら授業を進める。地図や写真、グラフなど視覚的に訴えながら、その国や地域の特徴を捉えさせる取り組みをする。また自分で地図を作ったり、分布図を作って特徴を表現することで理解を深める。
- 学習したことの定着率を高めるため、復習のための小テストの実施、家庭学習の習慣化のためのノートづくり、スクラップブックづくり、補習の取り組みを行ってきたが、効果があったと思われるので引き続き継続していく。
- 地理的分野、歴史的分野ともに、重要語句を漢字できちんと書かせる指導を日常的に行う。特に地理的分野の基礎学力をつけるため、基本的な事象についてくり返し学習し定着を図る。
- 歴史的分野では、国内の様子と当時の国際関係について関連づけた知識の定着を図るため日頃の発問で関連づける内容や作業を取り入れていく。
- 地理的分野では、引き続き白地図やワークシート等を活用し、また地球儀や地図を使いながら、作業的な学習を取り入れて理解しやすい授業を進める。**T1** と **T2** で生徒の作業の様子を巡回しながら指導していく。
- 地理的分野では、グラフや地図など、複数の資料から特徴や傾向をつかみ、それを文章に的確に書く作業を取り入れていく。生徒が気づく、考える、わかるという体験を多くさせるため、班で読み取れたことを発表し、理解している内容を深めていく。
- 歴史と地理相互の関連を意識づけるため、歴史の授業の中で歴史の舞台を地図で確認したり、地理の中で歴史の舞台となったところを復習する学習を、意識的に取り入れていく。
- 社会的事象について興味や関心を持たせるため、自分の意見を文章に表し、さらにそれを発表することで、お互いの意見や考えを知り、高めあえるような授業や、新聞記事を活用した授業の取り組みをこれからも継続していく。
- 話し合い活動や調べ学習、発表などを積極的に取り組む成果は大きいですが、計画よりも時間がかかることが多いので、年間計画の見直しと、内容の精選を行う。